



図書館だより

Shizuoka Institute of Science and Technology Library

TOPICS

1. LA 大学祭企画に参加

10月22日(土)・23日(日)開催の大学祭にて、ブックカバー制作ワークショップとビブリオバトル体験会を実施しました。ブックカバー制作ワークショップでは、来場者に気に入った布地を選んでもらい、LA(学生選書委員)から作り方の説明をうけてお気に入りのブックカバーを完成させていきました。ビブリオバトル体験会では、参加者の学生が各々のおすすめ本を紹介し、教職員と質問や意見を交わしました。コロナ禍による制限のあるなかでしたが、来場者には楽しんで頂けたようです。



2. 図書館コンシェルジュによる学習支援活動 再スタート!

ブログ記事掲載



コロナ禍により活動を休止していた学生による学習支援活動を、後期から再スタートしました。スタッフ6名(院生3名・学部生3名)によるコンシェルジュコーナーでの学習相談に加え、プログラミング質問会、設計製図相談会、Adobe Photoshop 講座、実験レポートの書き方講座などの開催、広報紙やSNSを利用した広報を行うなど認知度向上に力を入れました。学生へのお勧め本として選書した本は、スタッフの制作したPOPつきで展示し、Web本棚へのレビュー掲載もしていますので、ぜひご覧ください。

*p.4にはコンシェルジュ・LAの学生代表へのインタビューを掲載しています。

3. 「文献検索のキホン講座」を実施

11月1日～11月8日に全6回の講座を行いました。この講座では、参考文献の探し方・引用方法、データベースの使い方などを中心に学ぶことができ、日頃のレポート作成や卒業研究に役立つ情報が得られます。毎年、前期・後期に開講しており、その場で質問できる対面講座と自分のペースで学べるオンライン講座から選んで受講できます。次の機会に是非参加してみてください。
*資料はiLearnにも掲載しています。



4. 「科学道100冊2022」展示

理化学研究所・編集工学研究所による「書籍を通じて科学者の生き方・考え方、科学のおもしろさ・すばらしさを届ける」プロジェクト。2022年の3つのテーマ「情報の世紀」「光を追いかけて」「科学史タイムトラベル」の選定図書に加え、これまでに選書された人気科学コミック4シリーズを新たに展示しました。

チ。- 地球の運動について -

地動説発表以前の中世ヨーロッパを描く

Dr. STONE

ゼロから文明を作り出すサバイバル SF 漫画

風の谷のナウシカ

科学文明が戦争で滅びた1000年後を描く

はたらく細胞 免疫細胞の働きを漫画で学ぶ

5. 冬の上映会を開催しました

12月5日～16日、クリスマスツリーに彩られた図書館で、冬のイベントを開催しました。期間中の昼休みには、映画や教養番組など図書館の所蔵するDVDや、日本文学の朗読CDの日替わり上映をおこないました。

今後もさまざまなイベントを企画していきますので、ぜひお気軽にご参加ください。

6. 教員著作物・本学掲載記事紹介

○情報デザイン学科 本多明生 先生 ほか共著
『心理学研究法』サイエンス社, 2022.6
所在: 展示架(西閲覧室) 140.7/H84

○雑誌『新建築』 所在: 西閲覧室 学術雑誌コーナー
2022年11月号 学生ホールリノベーションの記事掲載
2023年1月号 土木工学科棟・実験棟の記事掲載



中澤 博志 先生(土木工学科) に聞く

「先人の知恵に学ぶ危険予測」

今回は、土木工学科の中澤先生にお話を伺った。土木工学とは、まちづくりに携わる学問である。名前の由来は、紀元前2世紀頃の中国で書かれた淮南子(えなんじ)という本であり、人民の生活を安定させる意味の「築土構木」が元であるという。中でも地盤工学は、目では直接見る事の出来ない地面の下が、雨や地震でどのように変化しているか?これに想像からアプローチし、工学的に実証する学問である。

中澤先生が地盤工学の研究に進んだきっかけを伺うと、1995年の阪神大震災であるという。青春時代をバブル期の大規模開発・建設ラッシュの中で過ごした中澤先生は、人の技術力に興味を抱くと同時に、大災害に対する都市の安全性に懸念があったという。そして、修士課程中に発生した阪神大震災で、「液状化しない」と言われていた場所が液状化したことを受け、大規模災害がいかに未知数なのかを実感することとなった。これを機に、地盤災害のメカニズムや対策を研究することとなった。

中澤先生は、関東大震災から100年目という節目の今年こそ、吉村昭の『関東大震災』を学生に読んで欲しいという。人の記憶は、時間が経過するにつれ驚きや悲しみが薄くなるものであり、世代を超えた教訓などは特に風化しやすい。膨大な史料と体験談を基に書かれた『関東大震災』には、東京の下町で避難所となっていた陸軍の

被服廠での惨状が生々しく描かれている。4万人弱が火災旋風に飲み込まれ、焼死に至る様子が嫌悪感を抱く人もいるであろう。しかし、噂話でしか現状把握できなかった当時、恐怖により理性を失った人々が陥る混乱を本質的に理解できる本書は貴重であろうと中澤先生は語る。

最後に、中澤先生に学生へのメッセージをお伺いした。「人間の中で一番重要な能力は“感覚”ではないかという。スマホやドローンといった便利品で、漠然と物事の重要箇所に案内されている現代人こそ、先人が残してきた知識・技術を見直し、自分で本質を見抜く力を磨くことが重要なので学生のみなさんにはその力を養ってほしい。」高く頑丈な防潮堤により海を隠された人々が、津波の怖さを意識し続けられるのか?強い安心感が慢心となる可能性は十分にある。

なぜ古くからある神社や寺は、災害から免れているのか?浸水や濁流に見舞われる土地が昔何だったのか?古い地図や歴史書には、その答えが多くあり先人の研ぎ澄まされた知恵が詰まっている。中澤先生は良く散歩をするそうだが、どうであろう?同じ散歩でも、地名の由来を知り、土地・地形を観察しながら散歩することは、防災のみならず日常生活の糧になるのではなかろうか。

【所在】文庫/北 453.2/Y91

インタビュー・記事：システム工学専攻1年 石橋大寛

私の選んだ一冊

吉村昭著『雪の花』を読んで

笠井良策が自身の私財や生活をなげうち、時に命懸けで天然痘の予防法を広めようと努力する姿に胸を打たれた。一方で、予防法を頑なに拒絶し、良策を狂人と罵った人々や行動を起こさず、結果的に人々を死に追いやった役人や藩医たちに深い憤りを感じた。

しかし、情報伝達の乏しい時代において、他国から伝わった死病の膿を体に取り入れる予防法を易々と受け入れられない彼らの心理は当然だ。彼らは憐れむべき無知な弱者であり、良策の苦悩はパイオニアとして避けては通れぬ宿命であった。

私はこの作品から他者の主張に耳を貸し、物事を多角的に捉えることの重要性を学んだ。作中の序盤、良策は他の漢医学者同様、西洋医学を嫌悪したが、他者の意見に理解を示し、考えを改める。それを発端として彼の激動の人生は幕を開ける。色眼鏡を外し、物事の見方を少し変えるだけで、自身を取り巻く世界は変貌する。

世界から天然痘をなくすことに貢献した笠井良策の記録を胸に刻むと同時に彼の優れた見識と行動力を見習いたいと思った。

建築学科4年 内藤魁人

【SIST秋の読書キャンペーン
感想文部門 応募作品より】

『環境危機をあおってはいけない – 地球環境のホントの実態 –』

ビョルン・ロンボルグ 著 ; 山形浩生 訳 (文藝春秋)

地球温暖化、気象変動、大規模災害、食糧危機、環境汚染、エネルギーや水資源の枯渇、これらのフレーズを聞いたことがない人はほとんどいないだろう。ただし、それらのフレーズの元となるデータを実際に入手し検証する機会はほとんどの学生諸君おいて、ないというのが現状であろう。このような観点から、2003年初版発行の少し古い本であるが、ビョルン・ロンボルグ[著]の『環境危機をあおってはいけない – 地球環境のホントの実態 –』(原題: The Skeptical Environmentalist)を学生諸君の読書としてお勧めする。

本書は、そのような地球環境のフレーズを網羅した時系列のデータベースのような本である。また、国際研究機関における裏付けが確かかつ一般的に入手可能な統計データや資料を利用して、地球環境が実際には改善していることを体系的に述べた環境問題の懐疑論におけるハシリ元的な本でもある。

現在、多くの公共データはネット上で公開されており、一定の条件を前提にダウンロードして統計ソフトを使えば簡単にデータを解析できる。本書に用いられているデータや資料の多くは継続して取得されており、現在までの推移を解析できることがお勧めする理由の一つである。

もう一つのお勧めの理由がある。環境と実質などといった経済的な観点を含む問題においては、

情報格差、多種多様な意見、多種多様な環境形成などを考慮しながら、バランスのとれた評価を下すことが重要であり、本書はそれを見事に実現している。理工系大学に属する君たちにとって、情報に惑わされず、一旦、常識を保留し、イチから物事を構築する必要性に迫られた際に本書が役に立つことは容易に想像できる。なお、本書は600ページあるが、著者の考え方を述べている第1部第1章を熟読すれば、その先はすらすらと読むことができる。ぜひ、本書を手に取り、データ解析の結果を聞かせてほしい。

なお、著者のビョルン・ロンボルグは、本書を出版した当時は統計学者であったが、現在では、政治学者の肩書きを有し政治の問題から生じる環境問題を扱っている。しかしながら一貫した真のテーマは、地球環境の本当の実態を追うであり、その本当の実態を次のようにまとめている。「地球温暖化が生じて、君たちの未来は明るい」「地球と一緒に頭を冷やせ」「気象変動は本当だが終末論的な脅威ではない」。さて、どうしてこのような論に至るのか、疑問を持った諸君は、是非、著者の書籍やブログをチェックし、議論に参加してみたいかがだろう。

【所在】西閲覧室 519 / L83

新着図書紹介

そのほかの新刊情報は ▶ [図書館 Web サイト](#) > [蔵書検索](#) > [カテゴリ検索](#) > [新着リスト](#)

メタバースと経済の未来 (文春新書)
井上智洋著, 文藝春秋

開運祈願しずおかご利益めぐり

幸せを呼ぶ神社・お寺詣
静岡新聞社著, 静岡新聞社

ココミル 飛騨高山 白川郷

ココミル 名古屋
JTBパブリッシング

旅行
ガイドブック
あります

スタートアップの経済学

新しい企業の誕生と成長プロセスを学ぶ
加藤雅俊著, 有斐閣

超圧縮地球生物全史

ヘンリー・ジー著 竹内薫訳, ダイアモンド社

SDGsとトイレ

地球にやさしく、誰もが使えるために (進化するトイレ)
日本トイレ協会編, 柏書房

言葉をイメージに変える

ひらめきデザインひき出し帖
Pastor著, 技術評論社

Pythonではじめる音のプログラミング

コンピュータミュージックの信号処理
青木直史著, オーム社

オノマトペの認知科学 (認知科学のススメ)

秋田喜美著, 新曜社

忍者に結婚は難しい 横関大著, 講談社

学生サポーターだより

2022年度後期より、図書館コンシェルジュがコロナ禍により休止していた学習支援活動を再開しました。これを記念して、図書館の学生サポーター「図書館コンシェルジュ」と「L A」の代表に、活動について訊きました。

Q1：コンシェルジュとして活動してみようと思ったわけは？

仕事を通して少しでも図書館のことを知るいい機会になると思ったからです。学内で隙間時間にアルバイトができることも魅力ですね！

コンシェルジュ

齋藤琢真さん
(システム工学専攻1年)

疑問や不安解決のための窓口の一つとして、気軽に足を運んでください。忙しくても睡眠と食事は大事にしましょう！



Q2：印象に残っていること、やりがいに感じたことは？

ポスターを制作するのは好きなので、広報のポスター制作にやりがいを感じていました

Q3：苦労したことはありますか？

3年ぶりの再始動だったので認知度の向上に苦労しましたね。定期的にミーティングをして意見を出し合い、解決案を模索できたのは良かったと思います

Q4：コンシェルジュの今後に期待することは？

1番の課題であった認知度の向上、相談件数や講座の参加者の増加に期待したいです



CAD や Adobe などの講座や相談会も開催しました

選書ツアーでは書店で本を選びます

*コンシェルジュは学習支援、L A (学生選書委員) は読書推進を軸に、図書館の学生サポーターとして活動しています。

Q1：LAに参加したきっかけは？

新入生歓迎会で先輩の話を聞き面白そうだと思ったのと、読書が好きで、選書ができることに魅力を感じたからです

L A

内藤魁人さん
(建築学科4年)

LA は、本が好きなのはもちろん、あまり本を読んでこなかった人でも楽しく活動できる団体だと思います。気軽に参加してみてください



Q2：楽しかったこと、印象に残っていることは？

読書会ですね。毎回テーマを決めて、各々が本を持ち寄り、話しあいます。好きな本のことについて話すのは楽しいですし、知らない本の話も聞けて一石二鳥です

Q3：コロナで学生生活に変化はありましたか？

授業もLAの活動も対面であったのがコロナ以降はオンラインで行うことが多く、何かと不便でした

Q4：LAの後輩に期待することは？

積極的にイベントに参加して楽しんでほしいです。LAの活動は本と人の出会いだけでなく本を媒介とした人と人の交流も生みだします。多くの本や人と出会い、大学生活を充実させてください



LIBRARY CALENDAR

開館時間： ■ 9：00～18：00

休館日： ■

■ 2月1日～3月31日までの開館時間 9:00～18:00

■ 大学指定休日のため休館：2月22, 27日, 3月6, 13, 20, 27日

※開館カレンダーは、状況により変更される場合があります。最新の情報は図書館ウェブサイトをご確認ください。

【編集後記】この原稿を書いている1月下旬現在、日本列島には寒波が押し寄せ、静岡では初雪を観測しました。電気代や燃料費が高騰して生活には苦しいニュースも多いですが、そろそろ菜の花や河津桜、梅の咲く頃です。日々の中にささやかな幸せを見つけて楽しく過ごしたいものですね。

2月						
日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	・	・	・	・

3月						
日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	・